

# 2007年度文部科学省 日韓高校生交流（派遣）事業A

## 大阪府立市岡高等学校 参加者レポート集



2007年10月5日発行

### 日韓交流レポート

日本の文化を受けられている韓国  
今回の日韓高校生交流事業に参加して感じたことを書きます。

#### 1. 似ていた文化

確かに、歴史で日本と朝鮮のつながりは勉強していました。しかし、実際に博物館やお寺を見学すると「日本と同じ」ということをより確信を持って感じました。今日においても日本で韓国のドラマが見れたり、韓国で日本のアニメが見れたり、両国の文化のつながりはありますが、こんなに古くからつながっていたんだと身近に感じる事が出来ました。

#### 2. 日本との違い



ところが、文化はつながっていても気質はやはり違いました。韓国の人は気持ちをすぐに口に出して表すように思います。高校訪問をした際、先生がマイクを持って授業をする光景が見受けられました。それは生徒が思い思いに自分の気持ちを主張するので、声を通らせるために使っていたのだと思います。この点だけを見るととても良い気質には見えません。しかし、人と接する際には大変有り難く思えました。一日という短い間で多くの友だちが出来たのはこの気質のおかげと言っても過言では

ないでしょう。韓国の友達に恥じらうことなく、積極的に話しかけてくれて、自分の気持ちをストレートに片言の英語や日本語、体を使って示してくれました。だから、私も言葉が通じない恥ずかしさなんか気にしないで良いんだと思い、会話にならない会話でしたが、とても良い時間を過ごしました。

#### 3. コミュニケーション手段としての言語

でも、やはりもっと韓国語が話せたらと思いました。もっといっぱい話したいこと、伝えたいことがあったからです。歯痒くて悩みました。韓国には日本語が話せる人がたくさんいて、お店のメニューも貼り紙にも日本語が使われています。積極的に日本の文化を受け入れてくれている証拠だと思います。しかし、日本はどうでしょうか？韓国人には受け入れてもらっているのに、自分たちは疎外しているように思います。外国の地で母国語があることほど嬉しいことはありません。日本も韓国の人にその嬉しさをわかってもらえるようにしなければいけないと思います。言語が持つ力は偉大で、そこにあるだけで、ほっとし、学ぶだけで文化を知ることが出来ます。だから、自分はまずしっかりと勉強することが大事だと思いました。そして、またいつか韓国の友だちに会ったとき、伝えられなかった思いを言葉にして伝え、そしてお互いをもっと知り合いたいと思います。片方しか思いがなければ「栈橋」にしかたれません。両方から手を伸ばせば、「日韓の架け橋」は揺らぐことのない強い橋になると思います。

## 一見無愛想な親切心

日韓高校生交流事業に参加して、韓国という国の文化への理解と関心がより深まった。

韓国の食事方式は日本と大きく違っていた。日本では、普通お箸だけで、ご飯やみそ汁、その他様々なおかずを食べる。しかし、韓国では、必ずお箸とスプーンの両方を使う。ご飯、スープをスプーンで食べ、おかずを食べるときは、お箸に持ち帰るのである。その他に、お椀を持ち上げてはいけない、などというルールがある。これらのルールは、空腹の時でも、慌てず、落ち着いて食べるための、健康的な文化である。他にも健康的な食文化がある。一般的に知られているように、韓国ではキムチを始め、たくさんの辛い料理がある。スーパーやコンビニで売られているカップラーメンさえ、八割方が辛い。辛いモノを食べることで、体温が上がり、血行や新陳代謝が良くなって、韓国の人たちは、より健康的で、肌が綺麗なものである。韓国の人々が特に気にしなくても、健康でいられるのは、これらの文化によるモノである。



次は、韓国人についてだが、第一印象は、「無愛想」であった。仁川空港の受付の人に話しかけると、私は笑顔で「アンニョンハセヨ」と言った。しかし、その人は目も合わせず、黙ってパスポートを受け取って、淡々とチェックすると、何も言わずパスポートを返してきた。私は少しとまどったが「カムサハムニダ」と言って頭を下げた。しかし、その人は既に次の人の対応をしていた。相変わらず淡々と……。途中、初めて立ち寄ったコンビニの店員も無愛想だった。しかし、私がサラリーマン風の通行人に、トイレの場所を聞いたとき、その人は近くの店の店員にトイレの場所を聞いて、わざわざその場所まで連れて行ってくれたのだ。態度は・・・相変わらず無愛想だったが、しかし、日本人にそんな態度が取れるだろうか？もしかしたらその人が優しすぎただけなのかも知れない。だが、私は韓国人の内なる「親切心」を見たような気がした。

この旅で、最も印象に残ったことは、たくさんの人々との出会いである。仙遊高校では、たくさんの生徒たちに囲まれ、終始笑いが絶えなかった。友だちもたくさん出来た。私のパートナーは大人しい子だったが、囲まれている私のことをいつも一歩退いてみていた。とても優しそうなお眼だった。その子のことは二度と忘れないだろう。

添乗員の李（イ）さんは韓国では、みんなのお母さんのような存在でとても優しかった。そして参加したみんなと一緒に旅が出来て本当に良かった。ありがとうございました。

## 「人と人」とのつながり

「近くて遠い国」この言葉は今回の日韓交流の中で、とてもよく耳にした言葉です。実際、私もこの事業に参加して韓国に行くまでは、そんな印象を持っていました。学校では韓国語は習うけれど、韓国についての知識などゼロに等しかったのです。

私がこの研修旅行の間で一番印象に残ったことは、仙遊高校への訪問でした。仙遊高校の歓迎ぶりは私の予想を遙かに超えていて、とても驚きました。授業の体験や休職、生徒たちとの会話、どれもこれも驚くことばかりでした。日本との違い、そして日本との共通点もたくさん発見できたと思います。韓国であっても、やはり私たちと同じ高校生。言葉がわからないながらも頑張ってくれてくれる話の内容は、私たちがいつも友達と話しているようなことと変わらなかったのです。それは互いの国が



違って、言葉の面で壁があっても、「心の中の壁」は無くなったと感じた瞬間でした。一日という本当に短い間だったのに、韓国という国を大いに知ることが出来たと同時に、私の中での韓国はとても近い存在に変わったと思います。

韓国語を選択しているだけでは、実際の国を知るのに時間がかかる上、伝わりにくいことも多いのではないのでしょうか？文化、習慣の違いは特に目で見て感じて、そこから学ぶことの方がたくさんあると思います。そして「近くて遠い国」という言葉。韓国に行くまではあんなに遠いと思っていた存在が近いと思えるようになったのは、人と人とのつながりのおかげなのだと思います。そこに国の違いは関係ありません。私の中で「近くて遠い国」は「近くて近い国」へと変わることが出来ました。

私は韓国に行って学んだ事、経験した事、思った事、感じた事など、たくさんのもを得たと思います。みんなの中の「近くて遠い国」を「近くて近い国」に変えるのは私たちの役目です。韓国に行って実際に体験した事や、日本と韓国の共通点などたくさんの事を、より多くの人に伝え、知ってもらえたら嬉しいです。「日韓の架け橋」として、自分が出る事を精一杯して、いつか日本と韓国が「近くて近い国」と言われるようになればいいなと思います。

今回のことで、私たちの間には国境を越えた絆が生まれたと思います。「大事なものは国の違いではなく、人とのつながりなのだ」と気づく事が出来ました。

## 似ている文化

私が韓国に行つて思った事は、韓国の人は日本語を話せる人が多いという事です。

日本では店とかであまり韓国語を話せる人がいないけど韓国ではたいていの店で簡単な日本語から普通の会話まで話せる人がいました。韓国の高校に行ったときも私はあまり韓国語を話せなかったけど、韓国の高校生は日本語の単語をけっこう知っていて英語もとてもうまくてびっくりしました。私も改めて、もっと勉強しないといけないなあと思いました。

韓国に行つて、もっと韓国について知りたいと思ったので、これからは韓国語の授業にもっと真剣に取り組んでいきたいです。

日本と韓国は仏教の影響で文化が似ていることが多かった。お寺などの建物は日本にあるものとそっくりだったし、ご飯もお箸を使って食べたりと、目立って違うところが少なかったと思います。でも、ご飯は「お皿を持ち上げてはいけない」とか、細かいところが少し違いました。こういう違いを知るのも楽しいと思いました。こうやって自分から韓国に興味を持つ事が大切だと思いました。町を走って気づいた事は、信号が少ない事よりも右側通行だった事です。日本より運転が荒かったので少しびっくりしました。



でも、韓国の人は親切な人が多くて町に買い物に行ったときも道を聞いたら親切に教えてくれました。あと、電車よりタクシーが安い事にびっくりしました。班行動で自分たちだけで町に出たときは心配だったけど、買い物も出来たし、集合場所に帰る事が出来ました。

あまり話せなくても身振り手振りで何とか通じる事が出来ました。これは高校に行ったときにも

思った事で、言いたい事が伝わらないって嫌だなあと思いました。もっと、勉強していけば良かったって改めて思いました。コミュニケーションはまず会話が出来るところから始まると思います。でも、言葉は通じなくても韓国の人の優しさは伝わりました。今回、韓国に行つて学んだたくさんの事をみんなに伝えていきたいです。そして、少しでも多くの日本人に韓国について興味を持ってもらいたいです。

良い体験をいっぱいさせてもらったので、これを生かして日韓の架け橋になるのが私たちの役目だと思いました。現地には行かないとわからなかったたくさんの良いところを伝えて、韓国人との交流が増えたらいいなあと思います。そして、日本がもっと韓国人の訪ねやすい国になればいいなあと思いました。

## 韓国で経験した事

私たちは、9月2日から7日まで日韓の交流を目的に韓国へ行きました。参加したのは東京・神奈川・大阪・兵庫の高校生二十五人です。

韓国に到着して始めに気づいた事は、建物や雰囲気が日本と似ているという事です。看板の字が読めないだけでさほど変わりはありません。ですから、遠い外国に来たというより親近感を持つ事が出来ました。

日本と似ているという点では、最近よく耳にする環境問題についてもそうです。日本ではリサイクルを呼びかける宣伝や省エネルギーなどが言われていますが、韓国でもいろいろな取り組みをしていました。

例えば、割り箸を使うのをやめて鉄の箸を使うようになったり、レジ袋をもらうにはお金を払わなければなりません。これは日本と同じように思われますが、韓国の場合は使ったレジ袋を返すとお金が返却されるようになっているのです。その他にもいろいろな工夫がされていて感心しました。

私が韓国へ行つて一番印象に残った事は仙遊高等学校を訪問したことです。学校に着いたとたん、たくさんの生徒が出迎えてくれました。どの生徒も親切で明るく、何十人もの



人がすれ違う度にあいさつをしてくれました。

私たちは学校の中を見学した後、パートナーの子と一緒に授業を受けました。私が受けたのは音楽とパソコンの授業だったのですが、レベルの高さに驚きました。音楽では、指名された子はみんなピアノが上手く、パソコンは使えて当たり前のようでした。私のパートナーはパソコンを使って日本のドラマや俳優が韓国で人気だという事を調べて教えてくれ

ました。

他にも、食堂でお昼を食べたり、一緒にサンドイッチを作ったり、プレゼントを交換したりと、たくさんの思い出が出来ました。たった一日しか交流は出来なかったけれど、韓国の友だちが出来、とても良い経験になりました。

学校訪問の他に北朝鮮がすぐそこに見える統一展望台や、日本の奈良県に似ている仏国寺、韓国の歴史を知る事ができる慶州国立博物館などを見学しました。

私は今回韓国に行きたくさんの事を学びました。日本は昔、韓国を支配した事を反省し、これからはもっと交流するべきだと思います。そして、私たちが少しでも日韓の架け橋になればいいなあと思いました。

## 楽しかった学校訪問

僕は今年から韓国語を学び始め、今回の日韓高校生交流事業に参加する事が出来て、本当にこの交流を主催してくださった方々に感謝しています。

この交流の中で最も印象に残ったのは、韓国の仙遊高等学校訪問です。仙遊高校に到着し、始めに韓国の生徒とパートナーを組み、お互い自己紹介をしようとしたが、僕もパートナーも緊張している感じだったので、なかなか上手く会話が出来ませんでした。しかし、この訪問の前日に自己紹介の練習をしていたので、とになく落ち着いてしゃべってみたら、パートナーも笑顔を見せてくれました。それに、パートナーも紙を見ながらだけでも、頑張って日本語を話してくれました。それから、普通の日常会話をしようとしたけれど、僕の知っている言葉が少なく、自分が言いたい事を言えずに困りました。このとき、言葉の壁は大きいなあと思ったけど、ジェスチャーなどで、何となく伝えたりする事ができたので、本当にホッとしました。

そして、コンピューターの授業を受けさせてもらいました。授業が始まると、僕は少し驚きました。僕の中の韓国の生徒のイメージは、いつも真面目で先生の話をしっかり聞いて賢い感じがあったけど、それとは違って、自分の好きなサイトを見ていたり、友だちとペチャクチャしゃべっていたりして、日本の学生と少し似ていると感じました。

授業では、僕も学校で使っているエクセルを使用し、授業内容はあまり変わらないと思いました。授業の途中に、パートナーに「パソコンをやってみるか？」と言われたけれど、画面の文字はすべてハングルなので、どれをどうすればいいのかわかりませんでした。



それから、体育の授業も参加させてもらい、韓国のみんが運動神経がとても良くて、動きについて行けませんでした。

その後、プレゼント交換などをすまし、別れの時が来たとき、せっかく仲良くなれたのに、もうお別れするなんてとても悲しかったです。

僕はこの交流のおかげで、たくさんのことを学びました。ただ韓国語を学ぶだけではなく、文化や歴史についても学ばなければならぬと思いました。今の自分は、まだ全然韓国に事

について知らないの、もっとこれから学習していきたいと思います。

これから、日本と韓国との距離がもっと縮まり、政治などの方面でも友好的関係を持てたらいいなあと思います。あと、自分ももっと勉強して、将来的に韓国に関わる仕事に就きたいです。

## 韓国について

僕はこの韓国との交流事業でいろいろな事を学びました。まず最初に学んだ事は、韓国との食文化の違いです。韓国の料理は比較的、全て辛く、日本食に慣れている自分にとっては韓国料理の多数が口に合いませんでした。でも、韓国の人たちはあの辛い料理を食べても平気だというのだから驚きました。

そして、次に驚いたのは、韓国人の人との接し方です。韓国人は日本人には考えられな

いぐらい積極的な接し方だったので、高校に行ったときはさすがに驚きました。しかし、その積極的なところが自分にとってはやりやすく、良い性格だなと思いました。

それに、韓国の気温は非常に低く、日本の仙台ぐらいの気温だと言っていました。僕は半袖のシャツしか持って行かなかったの、向こうに着いてから本当に公開しました。でも、これも学んだ事の一つです。

そして、今回学んだ事の中で一番大きいと思う事は、韓国と北朝鮮との近さです。韓国に行った一日目、韓国が一番北の方にある「統一展望台」というところに行きました。ここで韓国と北朝鮮との近さを知り、本当にびっくりしました。その北朝鮮と韓国との距離は、本当に近く川一つ隔てたところでした。その時、「もし韓国と北朝鮮が、また戦争になったら大変な事になるんだろうな」と、ふと思いました。万一そんな事になるようなことがあったら、戦争になる前に、中国・日本などが仲に入り、止めなきゃならないと思いました。



このように、韓国で本当にいろいろな事を学びましたが、他にも不思議に思う事も多々



ありました。その、不思議な事というのは、自分だけが感じたのかも知れませんが、こういうことです。韓国の街の中で買い物をする、韓国人はみんな日本語を少し知っているようでした。僕たちは、韓国語をあらかじめ勉強してしゃべっているの、韓国語がある程度わかって当然なのですが、「なぜ韓国の一般人の人たちで日本語がわかる人がこんなに多いのか？」と考えたら不思議な気持ちになりました。

この事業に参加するまで僕は、日本では最近「韓流ブーム」などが流行ったため、「日本だけが韓国に関心を持っている」と思いこんでいました。でも、それは間違ってたということがわかりました。関心を持っていたのは、日本のだけでなく、韓国の人たちも日本に関心を持っていたのだなあと思いました。

最後になりましたが、自分は韓国に行ってきた本当に良かったと思っています。おそらく参加したみんなもそう思っている事と思います。これからも、このような事業を続けて欲しいと思います。

## 韓国で感じたこと

私は、以前に三度韓国へ、行ったことがありました。そのうち二度は家族旅行で、一度はホームステイをしました。その経験もあったので、私にとって韓国は、とても身近な国でした。

しかし、今回の「日韓高校生交流事業」は、今までのものとはまた違いました。これまで全く知らなかったような人と一緒に約一週間行動するということが少し不安もありました。

韓国へ行って、私が一番印象に残ったことは、韓国には日本語を話すことができる人がたくさんいるということです。韓国で食事や買い物をしたときなどに入ったお店では、ほとんどの人が日本語を上手に話していました。私は、日本ではありえないことだろうと思いました。数年前に「韓流ブーム」があり、日本と韓国の距離はこれまでよりも近くなりました。しかし、私たちには、韓国語を学ぶ機会があまりありません。だから私は、日本ではたとえ観光地だとしても、韓国語を話せる人はあまりいないだろうと思います。

私の学校では、新しく韓国語が学べるようになりました。だから、私が今学校で学ぶことができる外国語は、多くて英語と韓国語の二言語です。しかし、韓国の高校では、もっと多くの選択肢があり、自分の興味のある言語や学びたいと思う言語を学ぶことができる可能性は日本の高校よりも高いと思います。この点は、日本の高校も見習うべきところだと思います。

他の国の人々と交流を深めて行くには、まず最初にその国のことをよく知ることが重要です。日本では、ごく普通のことでも、韓国では失礼にあたることもあります。だから、



その国の文化や歴史などをよく知ることによって人との接し方も違ってきます。

また、韓国にはまだ反日感情を持つ人がいるでしょう。しかし、最近では、日韓両国がお互いに興味を持つようになってきています。その結果、今回のような事業が行われたのだと思います。私は、「日韓高校生交流事業」に参加することができたことを本当に嬉しく思っています。旅行や観光をするだけでは、その国のことをよく知ることができません。しかし、このような機会に参加したおかげで、

実際に韓国の高校で授業を受けるなど、普通ではできないような経験をすることができました。韓国で新しい経験をしたことで、私自身も視野が広がりました。そして、以前よりももっと韓国のことを知りたいと思いました。だから、今回のような事業がもっと増え、より多くの機会を得ることができるようになればよいと思います。

今回の日韓交流は私にとって15回目の韓国訪問となる。1990年から前任校で朝鮮文化研究部顧問を担当していた私であったが、初めて韓国を訪問したのはわずか6年前(2001年)のことだった。宿泊場所は今回と同じ漢江(ハンガン)ホテル。6年前は、街の光景は日本と大差がなくても、目に飛び込んでくる看板に書かれたハングルの洪水に、カルチャーショックを感じずにはおれなかった。当時は英語表記も少なくハングルが読めなかった私にとって、何を書いてあるか読めないのは非常にもどかしかった。

こうして私は初めての韓国旅行の約1年後、2002年10月より独学で韓国語の勉強を始めた。NHKのラジオ講座を聞き、市販の入門書を読み、添付CDを聞き、また、夏休みに1週間ほど韓国の「カナタ韓国語学院」に短期留学もした。

しかし、やはり独学に限界を感じた末、2004年4月から大阪のある語学教室に通い始めた。そこでFMcocoloのDJやNHK大阪放送局の韓国レポーター・通訳も務める金水静(キムスジョン)先生と出会った。(これが縁となり、金先生には特別非常勤教師として市岡高校で韓国語を教えていただいている。)また、2005年には、韓国梨花女子大学教授ヒョン・ユンホ先生が来日し、1年間習うことができた。その後2006年度からは、大阪に住む韓国人留学生から個人レッスンを受けている。

本校で韓国語授業が立ち上がったのが2006年4月、本年度が2年目である。発足してからの歴史は浅いが、2006年12月韓国からの修学旅行団の受け入れ、今年1月文部科学省新世紀国際教育交流プロジェクトによる韓国高校生受け入れ、3月韓国への高校生派遣、4月ソウル大学韓国語教師課程34名の本校授業見学、そして今回の8名の派遣と、すでに5回目の日韓交流を経験したことになる。

今回の訪問団の募集を生徒に呼びかけたところ8名の定員に12名の応募者があり、50問の単語テストによる校内選考を行った。全員連れて行きたかったのは言うまでもないが、選考のためにみな猛勉強し、急激に語彙力が向上したことは幸いである。

実際行ってみると、習い始めて数ヶ月の高校2年生には、まだ韓国語で会話が成立するほどの能力はないことがわかる。今回の派遣で多くの生徒が自分のコミュニケーション能力の不足を実感したようである。その生徒らの中から「もっと韓国語を学んで気持ちを伝えたい」「3年でも韓国語を選択したい」との声が上がったことは本事業の成果が十分あった証拠といえる。



今回の交流プログラムの内容のうち、特に、統一展望台、ワールドカップスタジアム見学は「休戦状態にある緊張感」を実感すると共に、「日韓共同開催ワールドカップ」を期に始まった本事業の意図を自覚させる上で効果的であった。また仙遊高校訪問は最大の盛り上がりを見せた。相手校の生徒の人なつっこさ、授業中にもかかわらず窓から歓迎の声を上げ、涙を流して別れを惜しむ姿。積極的にコミュニケーションを図る態度などすべてに、韓国人ならではの

「情（チョン）」を感じさせられた。

慶州（キョンジュ）は私自身初めてであったが、天候に恵まれず、また2日とも寺・博物館の見学に終始したことは少し惜しい気がする。が、そこで見た仏像や建築物から日本と文化の共通点を見いだした生徒もいたこと、ホテルが特2級の立派なホテルであったことはいい思い出になったと思う。

最後の総括のミーティングで「日韓の架け橋」をテーマにグループで討議し、一人一人に何ができるか声に出して発表した。そのことは生徒にいつまでもそのときの気持ちを焼き付けておく作業として必要なものだったと思う。

仙遊高校の校長先生の挨拶の中で、「昔、日本を『カッカブコド モン ナラ（近くても、遠い国）』と呼んでいた」という話があった。私も同じ言葉を、昨年12月の本校と永薫高校との交流会の最後に使った。「昔、『カッカブコド モン ナラ』という言葉があったが、今もそうですか？」との問いに、永薫高校生は全員大きな声で「アニョー（いいえ）」と答えてくれた。確かに「近くて遠い国」は「近くて近い国」になりつつある。しかし、本当に「お隣」のような近い関係にするためにはどうすればいいのだろうか？私は、日本に住む人々が一人でも多く韓国語を学ぶことと、韓国を訪問する機会が増えていくことが、一番の近道だと考えている。

私はこれまで知り合ったたくさんの韓国人のおかげで、独学から数えて4年目の2006年9月、韓国政府主催の韓国語能力試験高級（5級）を受験し、合格することができた。引き続き勉強を怠らず、韓国語能力試験最高級の6級を目指すと共に、自身の語学力を基礎に、若者（高校生）の日韓交流、また韓国に関心を持つ多くの人たちと韓国人留学生との交流に取り組んでいる。今後も、あらゆる機会（学校、地域、ボランティア）を通じて、草の根日韓交流に尽力したい。

< 事前学習 >



< ホテル前で >



< 最終ミーティングのあと >



（写真：釜山（プサン）金海（キメ）空港にて、解散式の後）